新しくデジタル携帯型無線機を導入しました

海蔵地区防災会

避難や被災状況などの様々な情報収集とそれらの状況に応じた指示の伝達等、災害対応のために、これまでアナログ携帯型無線機を、地域に配備してきました。

しかし、アナログ無線が令和４年11月30日で使用できなくなることから、新しくデジタル携帯型無線機を、市の地区防災組織高額資機材等購入補助金を受けて購入し、基地局としての海蔵地区市民センターと20の自治会に設置されている自主防災隊に配備しました。

新しい無線機で、より広い通信エリアをカバーでき、災害時の組織連携を高めることができるようになりました（通信距離の目安：市街地は約１km、郊外は約1.5km、見通しの良いエリアは約４kmが可能）。

海蔵の懐かしい写真

（東阿倉川一区　蛭川保雄さん）

左の上の写真の中央に立っているのは旧四日市受信所の無線塔、その右横にあるのは局舎の上部で、雑木林の中に埋もれるように立っていました。同受信所は昭和２年に国際通信受信所として竣工し、「海蔵受信所」と称しましたが、後に「四日市受信所」と改称されました。撮影したのは、未憎悪の被害をもたらしたあの「伊勢湾台風」が来襲した昭和34年の秋で、２基の無線塔がなぎ倒され、残った１基が写っています。昭和36年12月１日に役目を終え、後に無線塔や局舎は取り壊されました。跡地は電電公社（現在のＮＴＴ）の所有地で、高層社宅が建ち、後に一部が分譲されて住宅が建ちました。その後、社宅は取り壊され、現在は新しい住宅地「ウェリスパーク阿倉川」となり、従前の分譲住宅と合わせて松カ丘となっています。

写真を撮った頃は、山手中学校の西側には乳牛の牧場と牧舎があり、その先は雑木林と畑が垂坂山まで続いていました。校舎の北側にあった垂坂山までの道は、幅2～３ｍの小道で（現在は、山手通りとなっています）、民家もまばらでした。その頃の遊び場といえば海蔵川や垂坂山で、垂坂山には野うさぎがいたし、松茸やシメジが採れました。

左の下の写真は、同じ頃に撮った垂坂山山頂です。山腹には防空壕、頂上には「大正天皇御駐蹕（ごちゅうひつ）記念碑※」（中央、松の後）がありましたが、それらはもう無くなっています。

山の東の現在の緑丘町の地に昭和石油の社宅が建設され始めたのもその頃でした。現在は、その社宅もなくなり、分譲宅地となっています。

当時、私は山手中学校の２年生で、「郷愁」の感というものはありませんでしたが、何か生まれ育った地元の風景を写真に収めておきたかったのだと思います。

※大正天皇が当時東宮であった明治45年４月に岡山（垂坂山）へ演習の統監に登られ、これを記念して大正４年に建てられました。（「海蔵小誌」より引用しました）

海蔵受信所の詳細は、海蔵地区ホームページのトップページ左欄の「遺跡・史跡・道標・碑」から、松カ丘　川森一成さん監修の資料をご覧ください。